



製品安全データシート

1、製造品及び会社情報

会社名	: 会社	長宗産業株式会社
	: 住所	大阪市淀川区三津屋南 3-17-27
	: 担当部門	
	: 電話	06-6308-0936
	: ファックス	06-6308-0937
作成日	: 1995年9月4日	
改定日	: 2011年4月8日	

製品名 : オーミフィルム600

2、危険有害性の要約

GHS 分類

: 目に対する重篤な損傷/刺激性、区分2A-2B
 生殖毒性 区分1B
 特定標的臓器・全身毒性 区分1 (中枢神経系、視覚器、全身毒性)
 (単回曝露) 区分3 (麻酔作用)
 区分3 (気道刺激性)
 特定標的臓器・全身毒性 区分1 (中枢神経系、視覚器)

GHS ラベル要素

【絵表示又はシンボル】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

- ・ 飲み込むと有害のおそれ (経口)
- ・ 吸入すると有害のおそれ (蒸気)
- ・ 強い目刺激性
- ・ 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

- ・ 中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害
- ・ 眠気又はめまいのおそれ
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 長期または反復暴露による臓器（視覚器、中枢神経系）の障害

【注意書き】

【予防策】

- ・ 使用前に取り扱い説明書を入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用し、ミスト／蒸気を吸入しないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 取り扱った後、手、顔などをよく洗うこと。
- ・ 指定された個人用保護具（安全帽、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具、保護手袋、保護衣、安全靴など）を使用すること。

【対応】

- ・ 飲み込んだ場合は、無理に吐かせずに口をすすがせ、直ちに医師の手当てを受けさせること。
- ・ 吸入した場合は空気の新鮮な場所に移して休息させ、医師の手当てを受けさせること。
- ・ 眼に入った場合は水で数分間洗い、コンタクトレンズを着用している場合は可能ならば外して洗浄を続け、医師の手当てを受けること。
- ・ 皮膚（または髪）に付着した場合は、流水／シャワーと石けんでよく洗い、刺激が続く場合は医師の手当てを受けること。
- ・ ばく露又はその懸念がある場合、気分が悪い時は医師の手当てを受けること。
- ・ 衣類にかかった場合は、直ちに全ての汚染された衣類を脱ぐこと。

【保管】

- ・ 容器を密閉して、直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて、涼しい所／換気の良いところに保管すること。
- ・ 容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

- ・ 内容物／容器を廃棄する場合には、当該法規に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。
- ・ 使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

3、組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 :

化学特性 (化学式等)	成分名	CAS 番号	官報公示整理番号	濃度又は 濃度範囲
CH ₃ OH	ポリビニルアルコール	9002-89-5(完全ケン化品)	(6) -682	6~7
		25218-24-5(部分ケン化品)	(2) -3079	
	メチルアルコール	67-56-1	(2) -201	20~25
	水			67~73
	その他			1

4、応急処置**吸入した場合**

- ・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。
- ・ 直ちに医師に連絡すること。
- ・ 医師の手当、診断を受けること。
- ・ 呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。
- ・ 呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には衣類を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸（又は酸素吸入）を行なう。

皮膚に付着した場合

- ・ 直ちに汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ、取り除くこと。
- ・ 直ちに医師に連絡すること。
- ・ 皮膚を速やかに洗浄すること。
- ・ 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
- ・ 医師の手当、診断を受けること。
- ・ 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合

- ・ 直ちに医師に連絡すること。
- ・ 水で15分間以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ 医師の手当、診断を受けること。

応急措置をする者の保護

- ・ 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
- ・ 長期または繰り返しの曝露により皮膚炎を引き起こすことがある。化学間質性肺炎の可能性有り。気道を確保して胃洗浄、活性炭の投与を考慮すること。医師に電話し指示を求めて下さい。

5、火災時の措置

消化剤

泡消火剤、散水または噴霧。小規模の火災の場合のみ、ドライ粉末消火剤、二酸化炭素、砂または土の使用可。消火用の水を水生環境に排水しないこと。

特有の危険有害性

- ・ 加熱により容器が爆発するおそれがある。
- ・ 不完全燃焼が起こると、一酸化炭素が発生しうる。

特有の消火方法

- ・ 消火作業は風上から行なう。
- ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火を行なう者の保護

- ・ 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6、漏出時の措置

人体に対する注意事項

- ・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

保護具及び緊急時措置

- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 作業者は適切な保護具（「8、ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
- ・ 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。

環境に対する注意事項

- ・ 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
- ・ 環境中に放出してはならない。

回収、中和

- ・ 漏れた液を密閉性の容器に集める。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- ・ 少量の場合には、ウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。
- ・ 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

二次災害の防止策

- ・ すべての発火源を速やかに取り除く。
- ・ 排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7、取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

【技術的対策】

- ・ 「8、ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

【局所排気装置・全体換気】

- ・ 「8、ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気装置、全体換気を行なう。

【安全取扱注意事項】

- ・ 使用前に使用説明書を入手すること。
- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- ・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。
- ・ 眼、皮膚に付けないこと。
- ・ ミスト・蒸気・スプレーを吸引しないこと。
- ・ 接触、吸入又は飲み込まないこと。
- ・ この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・ 取り扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること

【接触回避】

- ・ 「10、安定性及び反応性」を参照。

保管

【適切な保管条件】

- ・ 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。
- ・ 容器は直接日光や火気を避けること。
- ・ 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
- ・ 施錠して貯蔵すること。

【容器包装材料】

- ・ 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
- ・ ガラス、ポリオレフィン等(アトロン缶、ケミドラム、内装ポリオレフェンケース)

8、ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 200ppm (メチルアルコール)	
許容濃度 (メチルアルコール)	: TWA	200ppm
	TLV-TWA	200ppm
	TLV-STEL	250ppm
	PEL	200ppm

設備対策

- ・ 洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化または局所排気装置を設置する。屋外での取り扱いはできるだけ風上から作業する。

保護具

【呼吸器用の保護具】

- ・ 適切な呼吸器保護具を着用する。

【手の保護具】

- ・ ゴム等の不浸透性の保護手袋を着用する。
- ・ 飛沫を浴びる可能性のある時は、全身の化学用保護衣を着用する。

【眼の保護具】

- ・ 保護眼鏡又は安全ゴーグルを着用する。
- ・ 飛沫を浴びる可能性がある時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

【皮膚及び体の保護具】

- ・ 状況に応じて保護服、保護長靴、保護前掛け、保護衣、

【衛生対策】

- ・ 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9、物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 無色透明
臭い	: 刺激臭
pH	: 適用できない
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 65°C~100°C
引火点	: データなし
燃焼又は爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度 (空気=1)	: データなし
比重	: 0.95 (20°C)
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし

10、安定性及び反応性

安定性

- ・ 通常の取り扱いにおいて安定である。

避けるべき条件

- ・ 熱、スパーク、火気、およびその他の発火源を避ける。

混避危険物質

鉛に対しては、常温において腐食性をもち、また酸化物の膜で保護されていないアルミニウムは徐々に侵される。

危険有害な分解生成物

加熱すると分解し、可燃性の気体（水素、一酸化炭素）を生じる。

11. 有害性情報

急性毒性

- ・ 経口 LD50 : 14400mg/kg ラット (メチルアルコール)
- ・ 経皮 LD50 : 15800mg/kg うさぎ (メチルアルコール)
- ・ 吸入 LD50 : 64000mg/kg マウス (メチルアルコール)

眼に対する重篤な損傷・刺激性
傷・刺激性

: (その他の欄を参照)
: ウサギの眼に対し中程度の刺激性あり (メチルアルコール)

呼吸器感受性又は皮膚感受性

: (その他の欄を参照)

生殖細胞変異原性

: 変異原性があると考えられない。

発がん性

: 発がん性があるとは考えられない。

生殖毒性

: 雄マウスでの5日間飲水投与では精子の形態異常が認められた。(メチルアルコール)

催奇形性

雌のラットの妊娠1～19日目に吸入曝露、または7～15日目に吸入曝露した試験で、20000ppmで骨格異常及び催奇形性が認められた。(メチルアルコール)

雌マウスの妊娠6～15日目に吸入曝露及び経口投与した試験で、骨格異常及び催奇形性が認められた(メチルアルコール)

特定標的臓器・全身毒性—単回曝露

: (その他の欄を参照)

特定標的臓器・全身毒性—反復曝露

: ラットの90日間の経口投与では、高用量で肝障害を示唆する変化、脳重量の有意な低下が認められ、毒性学的無影響量は500ppm/kg/日と判断された。(メチルアルコール)

吸引性呼吸器有毒性

: (その他の欄を参照)

その他:(メチルアルコール)

: 気中濃度 800～1000ppm の 8 時間曝露により、目に重篤な障害(失明)を起す量が吸収されると予想される。

急性中毒では、頭痛、耳鳴り、倦怠感、不眠、眼球振戦、眩暈、歩行不整、吐気、嘔吐、腹痛、便秘、視力低下、複視、失明などが認められる。

大量摂取した場合、代謝が比較的遅いため8～37時間の潜伏期間の後、中枢神経に対する軽度の抑制作用(麻酔作用)、代謝性アシドーシス(酸性血病)及び目に対する障害(失明)があらわれる。

1000ppmで1時間作業すると、頭痛、眼に刺激及び疲労感を生じたと報告されている。

目、気道粘膜、皮膚に対して刺激性があり、反復または長期の皮膚への接触により、皮膚炎を起こすことがある

12、環境影響情報

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

生態毒性

魚毒性:	コイ	LC50 28000mg/l (48h) (メチルアルコール)
	ブルーギル	LC50 10000~15500mg/l (96h) (メチルアルコール)
	金魚	LC50 1700mg/l (48h) (メチルアルコール)

13、廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器・包装

- ・ 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14、輸送上の注意

国内規制

陸上 消防法

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等が無いことを確認する。
- ・ 転倒、落下、破損が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。
- ・ 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行なう。
- ・ 火気注意

15、適用法令

労働安全衛生法 : 通知対象物質、表示対象物 (メチルアルコール)
57条の2第1項第1号~7号 政令第93条労働安全衛生法施行令等の一部を改正する政令

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

船舶安全法 : 非該当

航空法 : 非該当

16. その他の情報

参考文献

- 1) 各原料メーカーの製品安全データシート
- 2) GHS 対応 MSDS の書き方

記載内容の取り扱い

- ・ 記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性に関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。